

Ril Net (Remote Islands Learning Network)

別添資料5

令和3年度～令和5年度までの主な成果

(1) 遠隔授業などICTを活用した連携・協働の取組

- 地理歴史科における年間を通じた遠隔授業を実施し、検証を行った。
- 遠隔授業における効果的な教材等について検証を行った。
- 8割を超える生徒が遠隔授業をととしての学習に対する意欲や関心の向上を実感している。(アンケートより)
- 単位認定を伴う相互配信のための教育課程の一部・日課・時間割・教科書などを共通化できた。
- 指定校における共通の定期考査を各学期に実施した。
- 指定校間で遠隔授業における成績評価の共通理解の形成ができた。
- 受信校における支援員の役割の明確化と精選を行った。

(2) 学校外の教育資源を活用した探究的な学びなどによる教育の高度化・多様化に関する取組

- コンソーシアムの構築により、新たな協働の機会を増やしたり、探究活動の内容の更なる充実に向けた取組を進めることができた。
- 指定校の生徒発表会をオンラインで相互視聴し、コメントを共有できた。
- 指定校3校の約96%の生徒が「地域の課題を考え、その解決に向け意欲的に取り組み将来も地域に貢献したい」と思っている。(アンケートより)

今後の課題や工夫等について

(1) 遠隔授業などICTを活用した連携・協働の取組

- より効果的かつ持続可能な遠隔授業の実施に向けた、教材・指導法等の研究
- 生徒理解のための技術的改善や評価方法等の研究
- 学校間における整合性をもった評価方法の研究 等
- 配信校と受信校の支援員との連携体制の維持・強化と、生徒の見取りや評価に関する協力体制の研究
- 配信教員をはじめとした担当者間の連携体制の効率化と、負担軽減に向けた取組 等

(2) 学校外の教育資源を活用した探究的な学びなどによる教育の高度化・多様化に関する取組

- 協働的な学びを持続可能にするための、地域内の各団体との継続的な関わりや地域のコーディネーターの活用
- 活動の深化を図るための専門性の高い外部人材との連携
- オンラインを活用した有識者からの助言や、他県の指導・連携状況についての情報共有の継続
- 「長崎県遠隔教育センター」における多様な学びのコンテンツの提供をととした、探究的・協働的な学びや様々な交流・連携の実現 等

【研究開発の背景と目的】

本県の取組は、しま地区の一島一校の3つの高等学校をいわば一つの大きな学校として捉える教育活動の充実を目指し、教育的効果や解決すべき課題、行政に求められる役割等について研究開発を進めるものである。一島一校の高校には、島内のほぼ全ての生徒を受け入れ、大学進学から就職までの多様な進路希望に応じた教育・支援を行うという役割が期待されているが、生徒の多様なニーズに対応した指導体制を、単独の高校で確保することは難しい。また、その地域の未来の担い手を育成する観点から、地域の関係機関と連携・協働した特色・魅力ある活動により一層取り組むことも必要であり、本事業に取り組む意義は大きいと考えられる。本事業を通して、生徒の自己肯定感を高め、社会の変化に主体的に関わるための資質・能力を育むことにより、一人一人の可能性を伸ばし、将来様々な分野でふるさとに貢献できる人材の育成につなげていきたい。

